



——介護のプロを自覚して  
責任感を持って仕事に臨みたい



「介護職員初任者研修」とは利用者の身体に触れる「身体介護」をするためには、必ず介護の資格を保有している必要があります。介護の資格はさまざまある中で、介護職員初任者研修はいわば「介護の入門資格」。鷹栖高校では、規定の130時間の講習に加え、さつき苑で3日間の実習を行っています。

新社会人が希望に胸を膨らませる春。鷹栖高校の「介護職員初任者研修」を修了した経験を生かし、介護現場で活躍し2年目を迎えた金巻雛乃さんをご紹介します。

介護職への道を考え始めたのは、中学生のころ。金巻さんは「祖父母の支えになりたい思いがあり、介護の勉強ができる鷹栖高校に入ろうと考えました」と話します。

しかし、当時同校において実施していた「ホームヘルパー2級研修」は、介護福祉士養成課程の改正の影響により廃止に。制度の転換期で希望していた介護の勉強が叶わなくなったのもありますが、2年生が受ける研修を本人たつての希望で3年生から受講しました。「放課後遅くや長期休暇中も学校に出てきて大変でしたが、みんなと一緒に勉強することで乗り越えられました」と言います。

高校では3年生の部に所属。

ボランティア活動や手話に取り組み、さつき会と関わる機会も多く、実習で現場を見学したことも振り返り「介護をすることは『お世話』のイメージを持っていました。実際には、スタッフの皆さんが利用者と一緒に生活し、記録付けをしつかり取り組まれている姿を見て、カッコいいと思いました」と、介護職に就くことを決意した経緯を話してくれました。

高校卒業後すぐに就職することも考えましたが、さつき会の職員へ進路について相談したところ、「介護への思いを強く持っているのであれば、進学して専門知識を深めたほうが将来のために」とのアドバイスをを受け、進学を選択しました。

卒業後さつき会へ就職することを夢見て、2年間の短大生活で勉学に励んできた金巻さん。昨年4月の入社後は、短大での1カ月間の実習先「ぬくもりの家えん」へ配属されました。

日々の仕事について「なるべく利用者さんに話しかけるよう心がけています。私自身はまだまだ実習生気分が抜けていない点もありますが、職場の先輩たちは、困難なことも利用者のためにいろいろな方法を試すなど諦めずに挑戦し、プロとしての姿勢を感じます」と言い、自身の目標としては「介護のプロとして責任感を持って働きたい」と力を込めます。

また、「介護の仕事は実習経験もあり内容を理解していましたが、業務の一環でイベントの運営を任せられるなど、戸惑う面もありました」と社会人1年目としての苦労話も。

今後の抱負として「後輩も入ってくるので、正しいことを教えるよう心掛けたいです」と言う金巻さんは、高校の後輩に向けて「せっかくなら選んで初任者研修を修了したのなら、福祉の道へ進んで資格を生かしてほしいですね」とエールも送ってくれました。



かねまき ひなの  
金巻 雛乃さん

(旭川市在住)

平成27年度から鷹栖高校で実施されている「介護職員初任者研修」の第1期生。旭川大学短期大学部への進学を経て、平成30年4月から社会福祉法人さつき会の職員。

CONTENTS (目次)

きら★びと	02
特集 始動：コミュニティ・スクール	04
平成31年度の主な新規事業	06
新AL Tの紹介 Hello Everyone!	08
町長コラム ヴォレアス北海道と地域愛	08
Topics (まちのニュース)	09
地域おこし協力隊活動便り	10
サンホールはびねすからのお知らせ 国民健康保険・国民年金について	11
Information (今月のお知らせ)	13
カレンダー、人口・世帯情報など	20